令和７年度第１回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

通常事業事前審査　議事録

日　　時：令和７年４月２４日（木）　午後５時３０分から午後９時００分

場　　所：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室

出 席 委 員：大宮　康一（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、柴田　洋子、
谷本　陽子、富田　宏、有賀　秀雄
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事　務　局：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　正　木　英　二

事務局職員：市　民　協　働　課　長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　中　筬　高　弘
まちづくり支援係　大　髙　まりあ

次　　第：１．委嘱状交付
２．委員自己紹介
３．市長あいさつ
４．委員長・副委員長選出
５．議題
（１）審査会の役割について
（２）本日の審査会について
（３）審査会の進め方、申請状況について
６．審査（質疑応答・市長講評）
７．事務連絡
８．閉会

【３　市長あいさつ】

本日は、令和７年度第１回瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会にご出席いただきありがとうございます。委員の皆さまにおかれましては、昨年度で任期が満了したことに伴い、改めて、委嘱状を交付いたしました。お引き受けいただきありがとうございます。５名の委員の皆さまには、これまで活発なご指導をいただきました。引き続き、よろしくお願いいたします。有賀委員におかれましては、様々なお立場で瑞浪市政に関わっていただき、昨年度は連合自治会長として連合自治会をリードするという大きな役目も果たしていただきました。高い知見で様々な企画に対してご意見をいただければと思います。皆さまに審査していただくことが、各団体の原動力になり、それぞれの事業がレベルアップするきっかけにもなると思いますので、忌憚のないご発言を期待しております。

【４　委員長あいさつ】

前委員長は、長年にわたり、本審査会の土台を作ってくださいました。これまでの経験や知見を活かした多くの方の意見が地域の方に届くような活発な会になるよう努めてまいります。何卒、ご指導のほどよろしくお願いします。

【４　副委員長あいさつ】

副委員長に選出していただいたことを真摯に受け止めながら、頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【５　審査会の進め方、申請状況等について】

≪審査会の進め方について事務局より説明≫

〇委員

タイムキープについては事務局に任せるべきか、委員長から声をかけるべきか。

●事務局

基本的には、ベルを参考に委員長から声をかけていただきたい。ただし、事務局も時間を確認し、必要があればお声がけする。

【６　審査】

≪①各地区からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

土岐地区まちづくり推進協議会（以下「土岐」）

〇委員　草刈り機教室事業

草刈り隊教室に参加した方同士が、次の教室の案内チラシをきっかけに地域で話をする機会があった。当初の目標にあった、地区の方との交流が達成されていると感じた。１回の教室で終わるのではなく、復習教室を実施されているのは大変良い取り組みであり、今後も継続していただきたい。草刈り機の貸し出しの実績はどのようか。

●土岐

今年で3年目となり、トータルで１００件ほど貸し出しがある。内訳としては、1年目５０件、2年目５０件程度である。今年度に入ってからも2件貸し出しの申請がある。

○委員 トレジャーウォーキング

土岐地区郷土再発見の冊子の予算１６万円は何冊分か。

●土岐

冊子には土岐地区の史跡が４５件掲載されており、１，６００部分の予算を計上している。冊子は以前から作成しているが部数が残り少なくなっているため印刷を予定しており、トレジャーウォーキングの参加者だけではなく、土岐地区以外の小学生にも配布を検討している。

○委員 地域安全活動事業

活動の見直しという表現があるが、どんな視点を持って見直しを検討しているのか。

●土岐

青パトは毎週月曜日の実施を１２人程度でまわしている状況であり、ＰＴＡの総会でお声がけすることで、協力者を募っている。ステッカーを作成し、車での見守りは難しいが、ステッカーの貼付だけでも協力していただき、地域全体で見守りができるような方法を検討する。現状、ドライバーが高齢化しており、車で回るだけではなく、それ以外の方法での防犯活動を検討していきたい。

○委員 地域防災力強化事業 花いっぱい事業

まちづくりにつなげるため、各世代にまたがって進めていただくと良いのではないか。今後、学校との関係をより構築していただけるとありがたい。

○委員 トレジャーウォーキング

まちを知ることが郷土を大切にする心につながるため、ぜひ続けていただきたい。「参加者も運営側も楽しく」という捉え方は大切であり他地区でも考えていただきたい。参加者の方はアンケートなどで調査できるが、運営側の振り返りをする機会はあったか。

●土岐

イベント後に反省会を実施した。トレジャーウォーキングは初めての取り組みであり、部会員の方と十分に話し合いができなかったため、反省会の際には部会員の方から「もっとこうしてほしかった」という意見があった。史跡の近くで待っているだけでは辛いという意見もあり、運営側も楽しくないと続いていかない。今後、部会員の意見も取り入れながらイベントを作っていきたい。

＜市長コメント＞

若い方が中心となり、皆さんのそれぞれの事業に対する熱い思いが伝わる説明をしていただいた。皆さんがそれぞれの事業をよく理解されているからこそ、明確な説明や的確な回答ができるのだと思う。今後もこの勢いで多くの町民の皆さまを巻き込んでいただきたい。トレジャーウォーキング事業について、他地域にも声をかけると参加者が大幅に増加する可能性があるため、その調整や安全対策も考えな

がら実施していただきたい。

特定非営利活動法人　明日の稲津を築くまちづくり推進協議会（以下「稲津」）

〇委員 環境保全事業

黒の田湿地整備、登山道の整備など大切な活動をされている。具体的にどのような問題や修繕の必要があり予算計上したのか。

●稲津

３０あるまちづくりの協力団体のうちの１つに黒の田湿地の保全会があり、この団体を中心に整備を行っている。夢づくり地域交付金の予算計上はないが、具体的な活動として、湿地帯にある遊歩道のロープの交換を予定している。

〇委員 社会福祉推進事業

お年寄りと子どものふれあい広場は、年に一度では寂しい。今後、件数を増やすなどされると良いのでは。

●稲津

本事業は主として社会福祉協議会が行っており、まちづくりも参加している。現状、まちづくりとしての事業は１つとなっている。

〇委員 まちづくり推進事業

苗植えや収穫祭において、主催者側が監視役になってしまうことも多くあるが、地域の方と子どもたちの交流はどのように行われているのか。例えば、いくつかの家族を運営側の参加者に受け持ってもらう担当制を採用することで、役割を持って参加していただけるのではないか。

●稲津

長寿会の方とさらにふれあう仕掛けがあると良いと考えている。単に芋ほりをして終わりではなく、インリーダーの子どもが芋掘り後の手伝いをしてくれるようになった。今年は小学５年生にも声をかけることを検討している

〇委員 まちづくり情報発信事業

子どもの意見を取り入れ、まちづくり新聞にクイズコーナーを新設するのは大変良い取り組みである。町民会議などの他の場面でも子どもとの意見交流の場を設けてはどうか。大人が企画し子どもが参加するだけでなく、一緒に取り組むなど検討しながら進めていただきたい。

〇委員 青少年健全育成事業

標語を募集し、看板にすることで「見える化」している良い取り組みである。標語が入選した際に、それがきっかけとなって会話が生まれる場面を見ることもあり、良い効果が生まれている。

〇委員 まちづくり情報発信事業

学生がボランティアとして積極的に関わっている地区であるため、ホームページや新聞づくりを子ど

ものアイデアで行うのはどうか。

●稲津

現在、ホームページやまちづくり新聞の作成は集落支援員の業務の一つになっているが、子どもたちとの関わりについて今後検討する。

○委員 環境保全事業

年間登山者推定延べ５，０００人とあるが、数値の根拠は何か。

●稲津

主催者発表の数値であり、正確な人数ではない。屏風山山開きの際には稲津公民館から約２０名が参加し、一般の登山者は１５名程いらっしゃった。

＜市長コメント＞

稲津は各種団体と連携をとり、それぞれの取り組みをまちづくりに取り入れながらさらに効果を上げる方法をとっている。他の地域にも参考にしていただきたい。町民の皆さま、コミュニティスクールの方々との連携は、役員の皆さまのおかげであり、それぞれの事業が大きな成果につながっている。

ふれあい広場は年一回の開催だが、毎月いきいきサロンを実施している。夢づくり地域交付金の事業ではないが、補足としてお伝えする。

瑞浪地区まちづくり推進協議会（以下「瑞浪」）

○委員 地域内の交流が活発なまちづくり事業

寺子屋事業について、サポーターと講師は別か。

●瑞浪

サポーターは子どものそばで指導をしていただく方、講師は前で授業を行っていただく方である。

○委員 潤いのあるまちづくり事業

ホタル観賞会は思った以上に子どもが参加していた。駐車場は暗かったが、車が通る道が整備されており、事故なく運営をされていた。ホタルはふわっと飛ぶ程度だが、瑞浪地区で見ることができることに魅力を感じた。カブトムシの事業についても子どもが喜びそうな事業で楽しみにしている。

○委員 潤いのあるまちづくり事業

みずなみ美化隊は土岐地区の草刈り女子に続く事業か。

●瑞浪

通学路の整備を中心にボランティアの方に立ち上がっていただいている。まちづくりが主体となるのではなく、ボランティアの方を集め、運営を補助しようと検討している。地域計画策定の際に、潤いのあるまちづくり事業の中にあるホタルやアサギマダラの話が出てきた。これにより、自分たちが住んでいる町を自分たちで綺麗にし、守っていくために草刈りをするという計画ができた。現在は７名で組織し、状況を見て月１回活動している。今後は活動の拡大を検討している。

〇委員 潤いのあるまちづくり事業

せっかくならアサギマダラの調査や記録も必要ではないか。フジバカマを植えるだけではもったいない。

〇委員 地域内の交流が活発なまちづくり事業

寺子屋事業は大変面白い活動であるが、夏休み中の５日間という短期間の開催である。これは金銭的な問題か。中京学院大学の学生にもぜひお声がけいただきたい。

●瑞浪

夏休み期間中やってほしいという意見もあるが、運営側としては大変な面もある。まずはこの規模から始めて大きくするということを考えている。人材の確保ができれば拡大できるかもしれない。安全の確保という点でも現在はこの規模が限界だと考えている。

〇委員 安全安心なまちづくり事業

青色回転灯防犯パトロールは延べ１３０名の方が参加しており、他地区の担い手減少している中、見守り・防犯に力を入れていただいている。今後も安全安心なまちづくりを行っていただきたい。

〇委員 潤いのあるまちづくり事業

男女共同参画事業の講演は５０名の参加を予定しているとのことだが、講演内容は既に決まっているか。

●瑞浪

実施することは確定しているが、詳細は決まっていない。参加者の半分は役員とまちづくり委員だが、少しでも輪を広げようとしている。目から鱗な話も多く、昨年度は女性目線で防災や避難所、非常持ち出しについて考える講演会だった。

＜市長コメント＞

年々工夫され、内容も充実してきており、特に子どもを対象とした事業を中心に様々な事業を展開している。瑞浪地区は駅前の市街地から山田のような田園地域まであり、これまでは山田を中心とした事業が多かった。今回、駅前の活性化、活用の課題に着目し、Ｍビルを活用して寺子屋事業を行っていただいたことは良いきっかけになった。予算を有効に活用し、地区全体で共通するような事業を考え、展開していただきたい。

明世地区まちづくり推進協議会（以下「明世」）

〇委員 青少年育成事業

こいのぼり祭りの計画書に「じゃんけんゲーム」「野球拳」という言葉があるが、「じゃんけんゲーム」に表現を統一すべきではないか。

●明世

計画を変更し、現在はけん玉やお手玉などの昔の遊びを予定している。

〇委員 明世ホタルの里“福”鑑賞会

アロマストーンのワークショップを計画しているが、アロマは各家庭で用意するということか。見本を用意するのか。

●明世

見本を用意する。

⇒後日変更 釜戸のホタルまつりでアロマオイルを配布し、明世のワークショップで活用できることを周知することで相乗効果を図る。

〇委員 広報活動事業

広報誌を年１回に減らした理由は何か。１年前に実施した事業の報告となると、ワクワク感がなくなってしまうのではないか。

●明世

地域計画の推進、お花畑事業、ホタル育成事業など、他事業の費用捻出のため。広報誌は年１回の発行だが、昨年から Instagram のアカウントを開設し、頻繁に更新することでリアルタイムの情報を発信している。

〇委員 スポーツ推進事業

ノルディックウォーキングは年８回開催し、報酬は１万円、健康講習会はヨガ、エアロビそれぞれ１回の開催につき報酬は１万５千円となっているが問題ないか。この理由が資料に反映されていると、適切な支出か判断することができる。

●明世

ノルディックウォーキングはまちづくり委員にボランティアでやっていただいており、報酬額にはご理解をいただいている。健康講習会はプロの方に依頼しており、相場が５万円のところを１万５千円でお願いしている。

＜市長コメント＞

明世ホタルＮＩＧＨＴの大成功を期待している。サイエンスワールドや化石博物館との交渉は済んでいるのか。（明世：交渉済み）最高のアイデアで相当大きなイベントになるのではないかとワクワクしている。明世ホタルの里“福”までに光の道を作るとのことだが、ランプを使用するのか。（明世：陶からバンブーランタンを借りる。火は使用せず、ＬＥＤライトを使用する。）

陶町明日に向って街づくり推進協議会（以下「陶」）

〇委員 交流人口拡大事業

登山道整備の予算を計上しているが、どの程度のエリアのどのような整備を予定しているのか。

●陶

まずは、徒歩で草木が生い茂っている場所や倒木を確認し、整備の範囲を選定する。

〇委員 防災減災セーフティネット事業

危険個所の調査をされるとのことだが、それに対して最低限の対策は必要ではないか。

●陶

通学路に関しては基本的に学校と連携する。今回の事業は、保護者と子どもが一緒に歩いて通学路の状況を確認し、例えば、「ここの川は雨の日は近づいてはいけない」といった危険個所の確認を親子で行うことに重点を置いている。

○委員 文化振興事業

広報紙は陶町のみの配布か。他地域からの参加を期待するのであれば、市内各地に配布するとよいのでは。

●陶

広報紙は町内への配布を検討している。落語会とコンサートについては稲津など市内への配布を検討している。また、広報みずなみへの掲載と市内各地のコミュニティーセンターなどにポスターを配布する。

○委員 防災減災セーフティネット事業

親子での理解も大切だが、学校と協働し、学校側が危険個所を把握することが必要である。

○委員 環境美化事業

散水ポンプの耐用年数はどのくらいか。苗が成長するまでの過程を子どもたちが見学することで、大変さや楽しさが理解でき、花を大切にすることや美化運動につながるのではないか。

●陶

ポンプは、１０年程度は問題ないと思われる。今年度からは、種ではなく小さい苗を購入して植え直し、水やりをして、ある程度の大きさまで成長させて配布する。地域を巻き込んで自分たちの活動をＰＲすることが必要であるため、育成から配布まで関わっていただけるよう動いていきたい。

＜市長コメント＞

様々な団体の理解を得るのは難しいが、強引に進めるのではなく時間をかけ、皆さんの意見を聞きながら進められている。２年目はさらにその動きを深め、理解者を増やして、陶の皆さんに受け入れられる事業になると良い。他地域では移住の取り組みの成果が出ているところもあるため、ぜひ空き家対策の事業を夢づくり地域交付金事業に位置付けていただきたい。

大湫町コミュニティ推進協議会（以下「大湫」）

○委員

利用している学生は何名か。

●大湫

大湫町全体で小学生が１３名、中学生が１名の合計１４名。今回の設置を予定している西区、足又区を利用している学生は３名ずつである。

〇委員

ボード板は何年かで交換を予定しているのか。思い出として公民館に掲示するなどの予定はあるか。

●大湫

使用するキッチンパネルは油性ペンで書いたものを溶剤でふき取ることができる。写真で残すのも１つの方法であるため、今後検討する。

〇委員

絵を描くのはイベントとして行うのか、随時書ける状態にするのか。バスを待っている間に書いてもらうのも良いのではないか。

●大湫

今後、保護者や子どもたちと一緒に検討する。

〇委員

待合所は資料にあるバス停イメージの写真と同様の形にする予定か。比較的簡易的なものになるが、耐用年数はどのようか。

●大湫

基本的な形状は資料の写真のとおりである。ただし、奥行きを若干長くする予定。耐用年数はかなり長期間あり、風にも耐えられると聞いている。

〇委員

花壇の整備は４地区を検討しているのか

●大湫

４地区すべて行うわけではない。西区は花壇を壊して待合所を設置するため花壇の整備を行う。足又区も再整備を行う。

〇委員

軒が道路にはみ出す場合は許認可が必要になるのではないか。

●大湫

はみ出さないよう設置する予定。業者にも伝える。

＜市長コメント＞

夢づくり地域交付金は地域の活性化や課題解消を目的としている。当初から、大湫町はイベントではなく地域の課題解決に事業を絞り込み、予算を使っていただいている。イベントは大湫町の予算を活用されており、この予算の配分の仕方は素晴らしい。特に今回はバスの待合所という良いところに目を向けていただいた。大きな事業の際にはステップアップを活用いただき、大湫町の課題解消に向けて動いていただきたい。

特定非営利活動法人　釜戸町まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）

〇委員 竜吟の滝ホタルまつり＆鑑賞会

資料中、７活動スケジュールには灯篭製作ＷＳの費用が２０，０００円、８収支予算には備品費９０，０００円となっているが、どのようか。

●釜戸

７活動スケジュールについては活動の内容と経費の内容が対応しているが、８収支予算については活動の内容と支出内容が対応しているわけではない。灯篭製作ＷＳの予算は原材料費の２０，０００円である。

〇委員 竜吟の滝ホタルまつり＆鑑賞会

灯篭製作ＷＳの参加見込みは何名か。

●釜戸

釜戸小学校の児童２０名程度を想定している。

〇委員 竜吟の滝ホタルまつり＆鑑賞会

明世とのコラボによってどういう効果を期待しているのか。計画段階で明世と交流があるのか。

●釜戸

竜吟峡は市外の認知度はあるものの、市内の集客ができていない。明世地区の事業において市民向けに広く告知をすることで、市内への周知を図る。明世地区と釜戸町のイベント自体は別になるが、同じ瑞浪市内で２か所ホタルまつりを開催することを周知することで、より多くの方の目にとまるのではないかと考えている。

〇委員 釜戸町民白書製作事業

町民の感じる課題を可視化し、これからアンケート内容を考えられるとのことである。釜戸小学校はコミュニティスクールにも力をいれていただいており、「子どもたちに残していきたいもの、伝えたいこと」を共通して理解いただくことがコミュニティスクール推進の目的となる。このような視点を入れていただくことが可能なら検討していただきたい。

●釜戸

ベースとなるのは２５年前にまちづくり推進協議会が発足した際の町民アンケートである。この際の設問と同じ設問をすることで２５年前の町民の理想にどれだけ近づいているかを明らかにしたい。まちづくり推進組織だけでなく、子どもたちに残したい町の姿を町民と共有することが重要だと考えている。

〇委員 竜吟の滝ホタルまつり＆鑑賞会

釜戸に行ったら明世にも行きたくなる、その反対も叶うような実質的な特典があるとよい。明世でアロマストーンを配布するならば、釜戸で生活の木のアロマオイルを配布するなど、具体的にお得感や参加したい気持ちが起きるような工夫があると良いのではないか。

●釜戸

アロマオイルについて、生活の木の協力が得られるか検討する。

〇委員 釜戸町民白書製作事業

２５年前とは年齢構成が明らかに異なっているため、アンケート結果を単純に比較するのは難しいのではないか。釜戸村から１５０年という節目にあたり、何を残すべきなのかに目を向け、そういったことを考えることが必要ではないか。

●釜戸

町民アンケートは今後のまちづくりの事業の精査に使っていきたい。新しい事業を行う際に何を削るかが問題となる。どの事業も必要性がある中で、取捨選択が難しくなっている。その中でも、新しくＮＰＯ法人になったことにより新しい事業を期待する声もあり、その必要性の町民理解を醸成していきたい。

〇委員 釜戸町民白書製作事業

どういった内容を誰に向けて書くのかが重要になる。歴史をメインに書くのか住民の声の変遷をメインに書くのかによって書き方やボリュームが変わってくる。アンケートの結果だけで事業の取捨選択は難しいのではないか。アンケートは１つのデータとして扱い、それを議論のきっかけにする方が良いのではないか。対話の中での合意形成や取捨選択を期待したい。

〇委員 釜戸村誕生１５０周年イベントの開催

中学生ボランティアなど、多くの子どもたちが関わることができると良い。釜戸町文化祭は令和７年１０月２６日（日）～２７日（月）とあるが間違いないか。

●釜戸

資料が誤っており、正しくは１０月２５日（土）～２６日（日）である。

＜市長コメント＞

釜戸町のまちづくり推進協議会がＮＰＯ法人化された。法人化により責任の所在が明確になったと同時に、独自の事業により自主財源を確保したいという発表もあり、素晴らしい事業が始まるという印象を受けた。夏祭りや文化祭を単独ではなく１つの事業の中に盛り込んだことは大変面白く、かつ、わかりやすい表現となっている。ぜひ成果につなげていただきたい。

日吉町まちづくり推進協議会（以下「日吉」）

〇委員 移住定住促進事業

しゃべり場を年代別にした理由は何か。

●日吉

若い方は意見が言いたくても言えないことがある。また、まちで集まろうと声をかけた際、若い世代が出てきにくいという現状がある。まずは高校生、大学生、２５歳以下の社会人を対象として、ゴールデンウィークの帰省中にちょっとした同窓会のような感覚で集まっていただきたい。それぞれの世代で課題は異なるため、世代別の話し合いの場を企画した。

〇委員 移住定住促進事業

「ちょっと手伝い隊」の活動内容はどのようか。

●日吉

大学生や地域住民の方にごみの片付けや掃除など危険のない範囲で手伝いをお願いする。

〇委員 教育文化事業

子ども園保護者会の助成金が１０万円計上されているが、使い道はどのようか。資料に使い道の例などが示されていると理解しやすい。

●日吉

日吉子ども園は園児が少なく、保護者の会費だけでは市内の他の園と同様の行事（体操の教室や劇の鑑賞会など）ができなくなってきている。これに対して町が補助を行い、小さな園でも体験機会が減らないようにしたい。財源は財産区の助成金を活用する。

〇委員 教育文化事業

古文書教室の受講人数の見込みはどのようか。資料に受講人数の目標を記載すると良い。

●日吉

３年前は１０名以上、町外の方もいらっしゃった。

〇委員 移住定住促進事業

資料に「未来の日吉を考えてみよう」という子どもたちが集まっている写真があるが、このような事業を実施される予定はあるか。予算計上は必要ないか。

●日吉

写真は寺子屋事業の様子である。教育文化事業の各種団体支援として予算計上している。

〇委員 移住定住促進事業

釜戸町・陶町・大湫町と連携を図るとあるが、具体的にどのような連携を図るのか。

●日吉

釜戸町については会議に参加させていただいた。また、釜戸町、大湫町が空き家ツアーをした際に、日吉の空き家にも立ち寄っていただいた。陶町は移住に関するチームができたため、今後一緒に取り組んでいきたい。

〇委員 移住定住促進事業

しゃべりやすい環境を提供するとともに、参加者が年代を超えて交流する場もあると良い。これにより、世代間の理解が生まれる。若い方が話しにくいという現状もある中で、交流会の最初にルールを周知するなどして会を組み立てることが大切である。

＜市長コメント＞

特産品開発事業については、ステップアップ事業を活用いただき、天狗の台所をリニューアルされた。

新たな特産品の開発を期待している。また、中部大学に協力いただき、ふりかけコンテストを行った。中部大学からも評価をいただいているため、さらに連携を深め、商品化まで進めていただきたい。移住定住について、具体的な取り組みをわかりやすいネーミングで表現されている。計画どおりに実施していただき、成果の発表を期待している。

【７　事務連絡】

≪事務局より事務連絡など≫

【８　閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上